

資料-2

札幌開発建設部 ダム事業費等監理委員会資料 ～雨竜川ダム再生事業～

令和6年8月7日
国土交通省 北海道開発局
札幌開発建設部

1. 雨竜川再生事業について
2. 事業費・工程について
3. 令和6年度工事概要について
4. 事業費増額の可能性がある事象
5. まとめ

1. 雨竜川再生事業について

雨竜川ダム再生事業概要

雨竜川ダム再生事業は、既設の発電ダム（雨竜第1ダム・雨竜第2ダム）の利水容量を洪水調節容量に振り替えるとともに、雨竜第2ダムの嵩上げと合わせて約2,500万m³の洪水調節容量を確保し、治水機能を付加することを目的としている。

<事業内容>

目的：洪水調節
 雨竜第1ダム：容量振り替え（洪水調節容量 18,700千m³）
 雨竜第2ダム：容量振り替え＋嵩上げ3.8m
 （洪水調節容量 6,300千m³）
 事業工期：平成30年度～令和15年度
 総事業費：約449億円



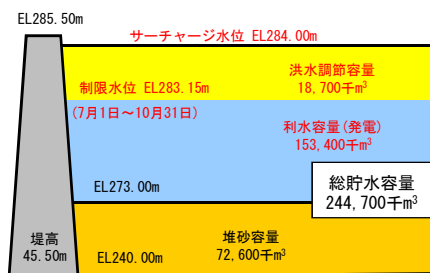
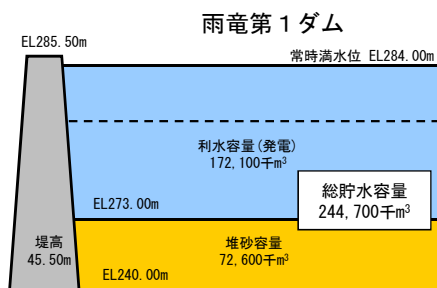
再生後諸元表

名称	型式	ダム高 (m)	堤頂長 (m)	総貯水容量 (千m ³)	有効貯水容量 (千m ³)	集水面積 (km ²)
雨竜第1ダム	重力式コンクリートダム	45.5	216.0	約244,700	約172,100	202.5
雨竜第2ダム	重力式コンクリートダム	39.5 (35.7)	255.7 (230.0)	約24,100 (約21,600)	約13,900 (約11,400)	109.7

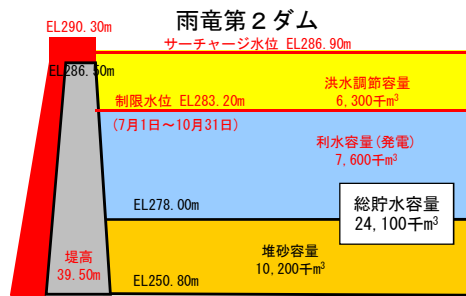
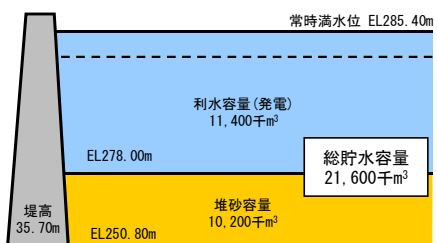
() 再生前の諸元

現行

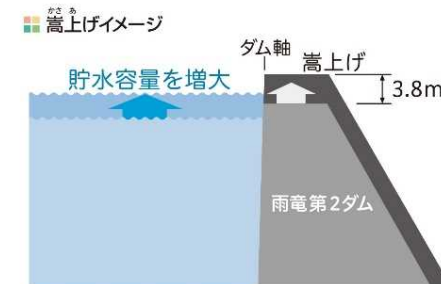
再生後



雨竜第2ダム



貯水池容量配分図



- 雨竜川(北海道区間)幌加内町



雨竜川KP.46左岸(深川市)



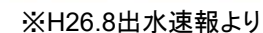
(浸水面積 約0.7 ha)



雨竜川KP.29右岸(沼田町)



(浸水面積 約16.2 ha)



凡例：はん濫箇所

近年における出水の被災状況

- 平成28年8月出水 雨竜橋水位観測所で避難判断水位を超過し、幌加内町などで排水ポンプ車による排水活動を実施。
- 平成30年7月出水 雨竜橋水位観測所で氾濫危険水位を超過し、雨竜川流域内では3戸の床下浸水が発生。
- 令和 2年11月出水 雨竜川上流の北海道管理区間における農地（主にそば畑）及び国道において冠水が発生。
- 令和 5年8月出水 雨竜川上流の北海道管理区間における農地（主にそば畑）及び国道・道道において冠水が発生。



雨竜川ダム再生事業の経緯

昭和18年	8月	雨竜第1ダム、雨竜第2ダム完成
昭和63年	8月	停滞性前線による洪水発生（下流部で戦後最大）
平成16年	6月	「石狩川水系河川整備基本方針」策定（H16.6.15）
平成19年	5月	「石狩川水系雨竜川河川整備計画」策定（H19.5.9）
平成26年	8月	低気圧・前線・台風による洪水発生（整備計画目標流量を上回る・中上流部で戦後最大）
平成29年	6月	「ダム再生ビジョン」通知
平成29年	7月	「石狩川水系雨竜川河川整備計画」変更（H29.7.6）「既設ダムである雨竜第1ダム・第2ダムを有効活用し、新たに洪水調節機能を確保する」と位置づけ
平成29年	8月	「雨竜川ダム再生事業」新規事業採択
平成29年	10月	雨竜川治水促進期成会の設立（ ふかがわ 深川市長（会長）、 うりゅう 雨竜町長、 もせうし 妹背牛町長、 ちっぶべつ 秩父別町長、 ほくりゅう 北竜町長、 ぬまた 沼田町長、 ほろかない 幌加内町長）
平成30年	4月	「雨竜川ダム調査事業所」設置 実施計画調査着手
令和2年	8月	「雨竜川ダム再生事業」再評価
令和4年	8月	「石狩川水系雨竜川河川整備計画」変更（R4.8.8）、「発電容量の一部を洪水調節容量に振り替えるとともに、雨竜第2ダムの嵩上げと合わせて約2,500万m ³ の洪水調節容量を確保」
令和4年	8月	「雨竜川ダム再生事業」ダム事業の新規事業採択時評価
令和5年	4月	「雨竜川ダム再生事業」建設移行
令和5年	8月	「雨竜川ダム再生事業」再評価

2. 事業費・工程について

総事業費及び残事業費

- 雨竜川ダム再生事業はこれまでに各種調査・設計を実施しており、総事業費約449億円のうち令和6年度予算は約44億円、令和7年度以降の予算は約285億円となっている。

総事業費	令和5年度迄	令和6年度予算	令和7年度以降の予算
約449億円	約120億円	約44億円	約285億円

事業工程について

- 平成30年度から実施計画調査に着手し、令和5年度より建設に着手した。
- 雨竜第1ダムについては、令和6年度から管理設備工事に着手する。
- 雨竜第2ダムについては、令和5年度から仮設工事に着手しており、令和6年度末に本体工事に着手する。

※工事契約に関連する情報が含まれているため、一部非公表としています

3. 令和6年度工事予定について

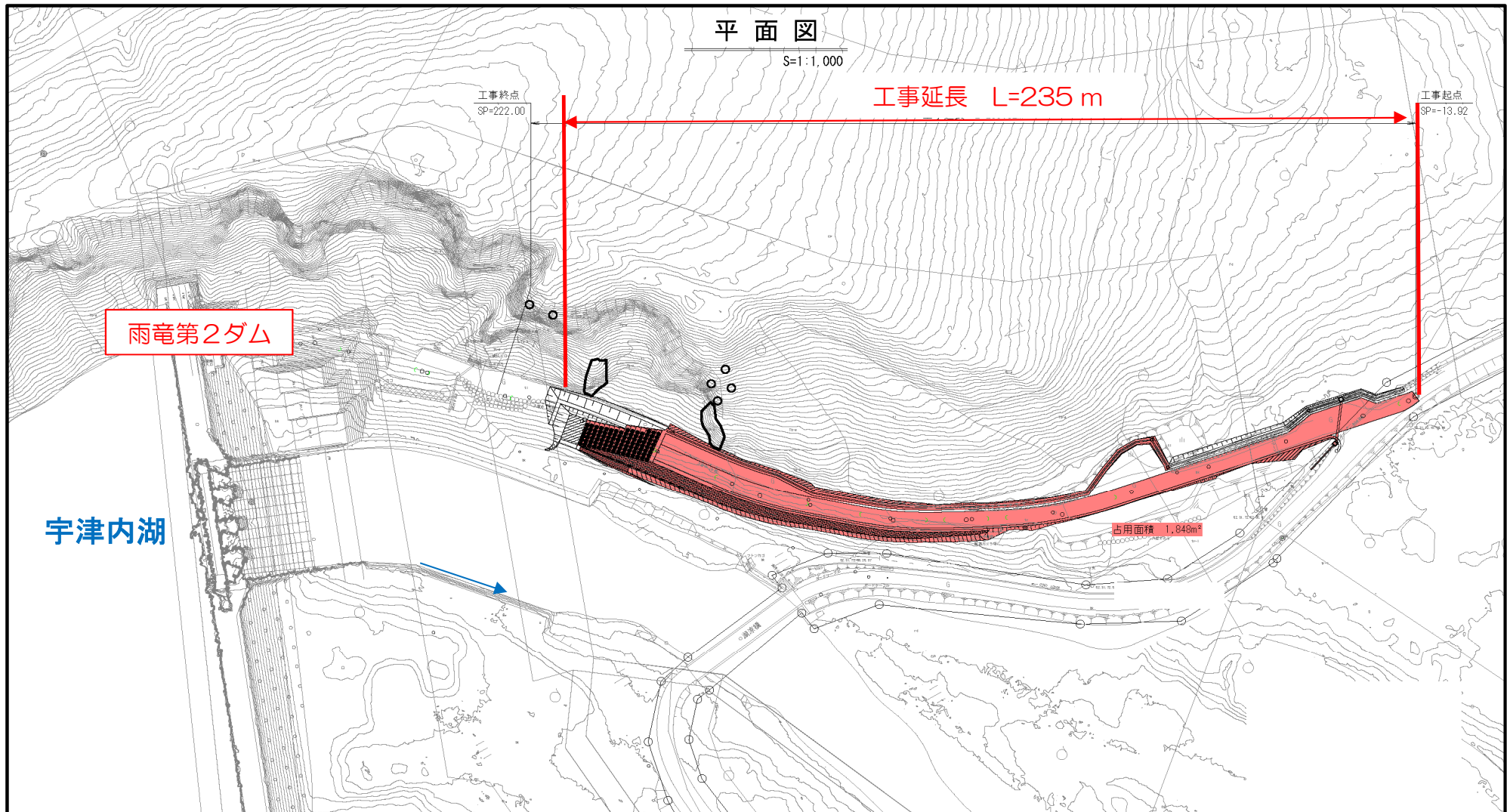
工事費	堤体工、堤体関連工事	約21億円
間接経費	測量設計費等	約20億円
共通経費	工事諸費等	約3億円

※令和6年度予算は当初予算に基づく。
※端数処理のため、合計が一致しない場合がある。



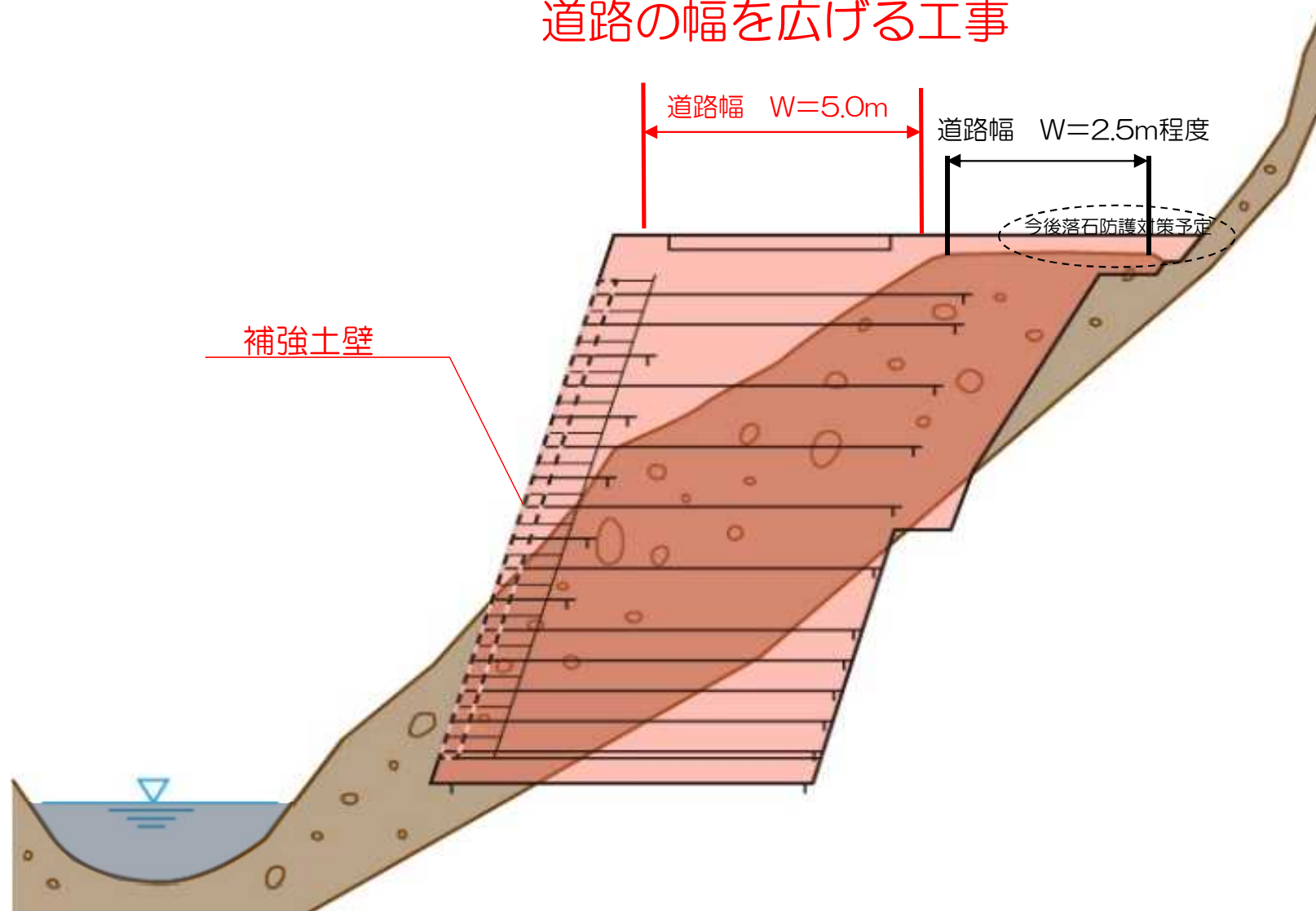
①堤体左岸工事用道路工事

雨竜第2ダム の本体工事着手に向け、本体工事に必要な**工事用道路**を造成する工事。



①堤体左岸工事用道路工事

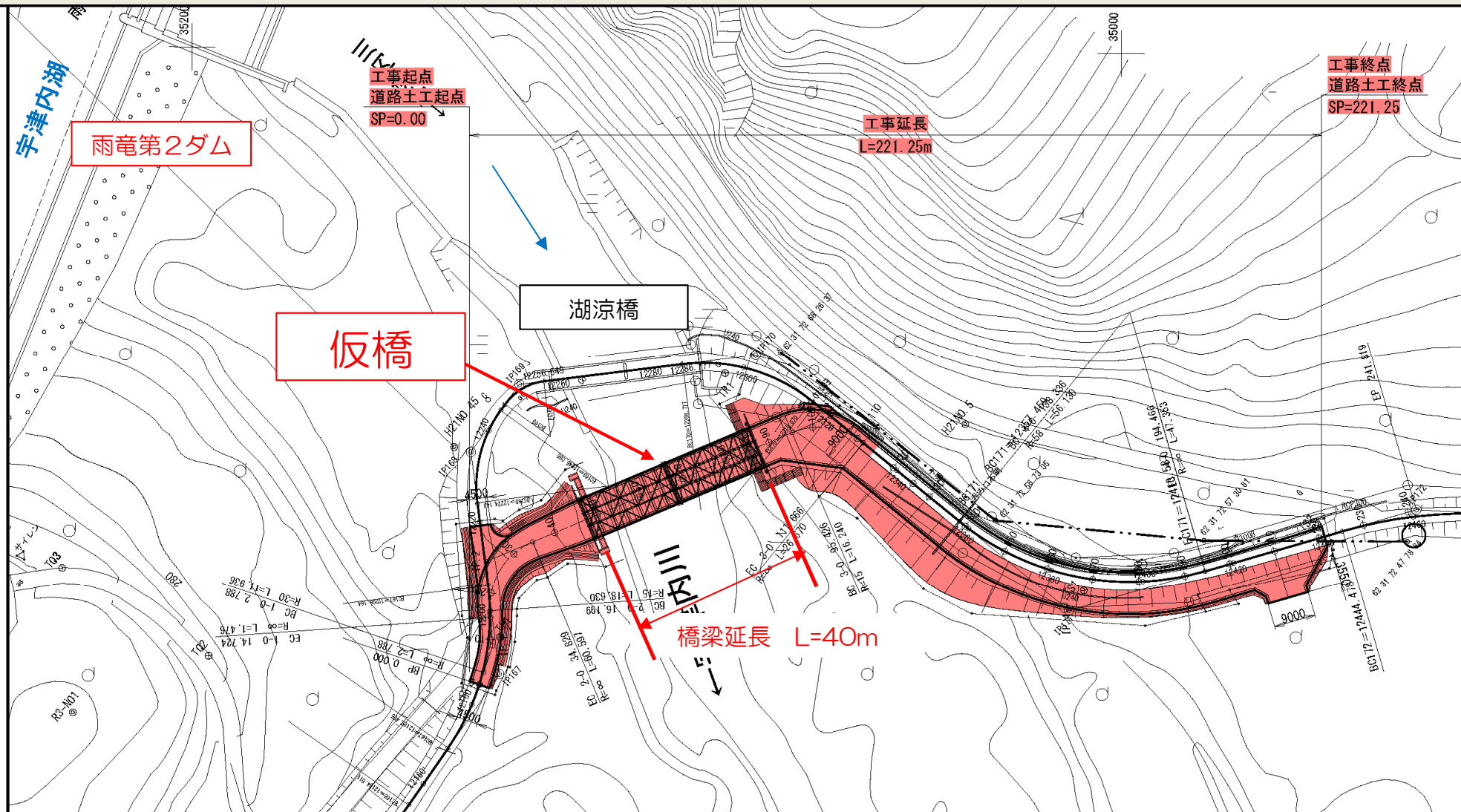
道路の幅を広げる工事



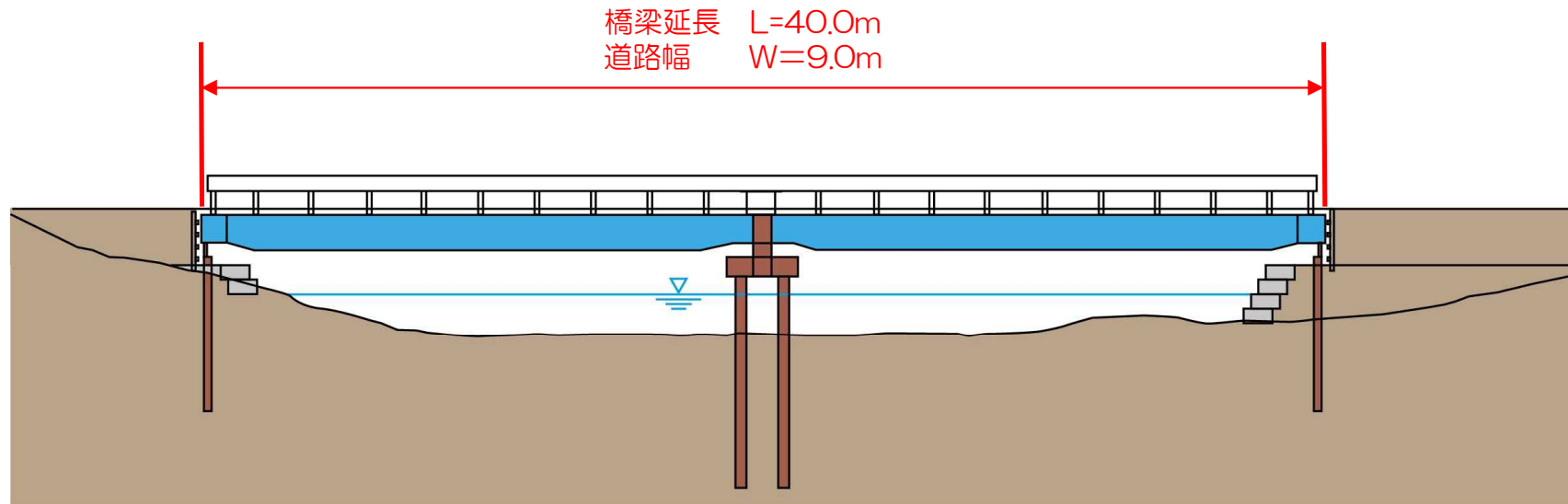
断面図（イメージ図）

②仮橋設置工事

雨竜第2ダムの本体工事着手に向け、本体工事に必要な**工事用仮橋**を設置する工事。



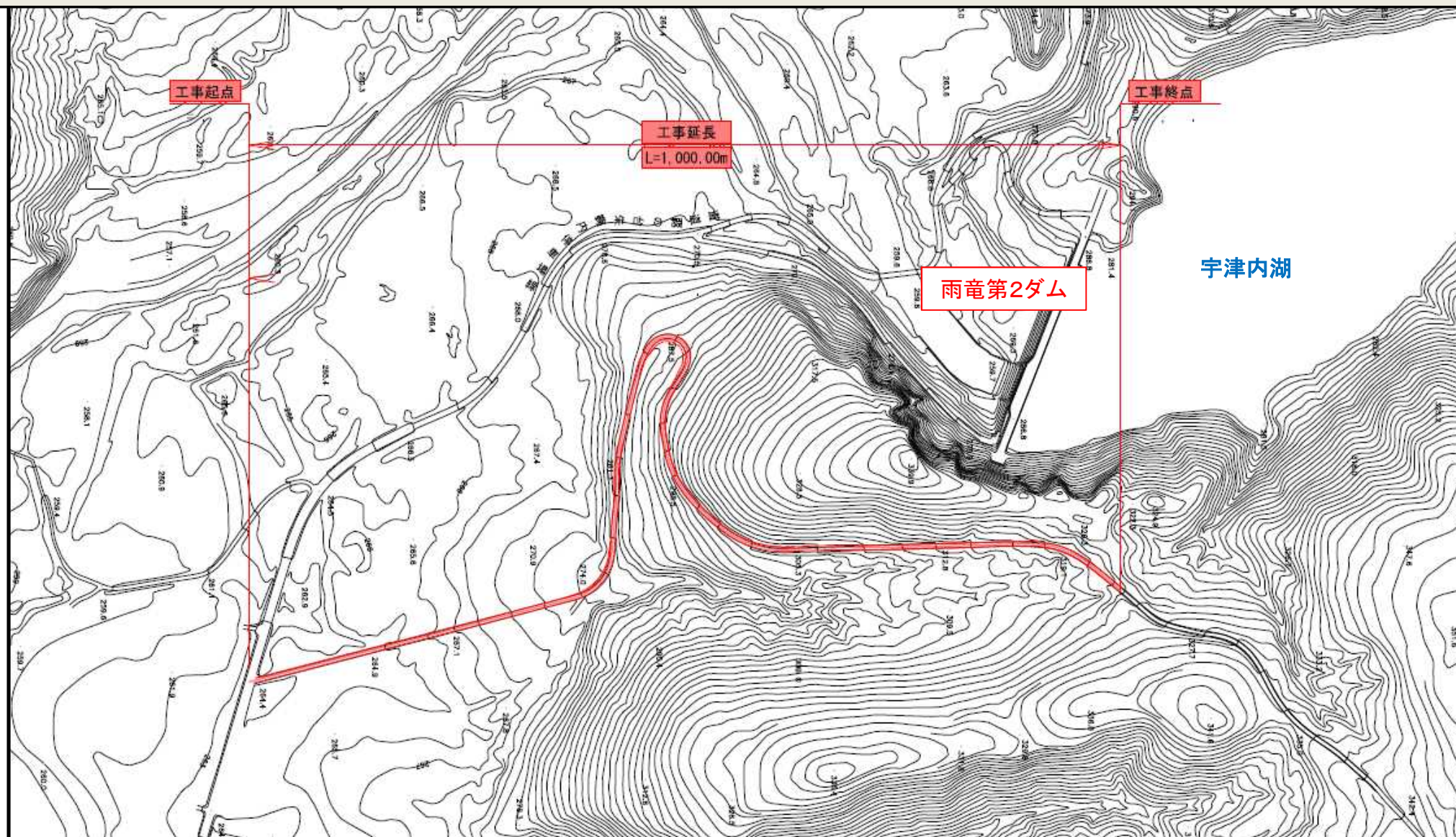
仮橋をかける工事



断面図（イメージ図）

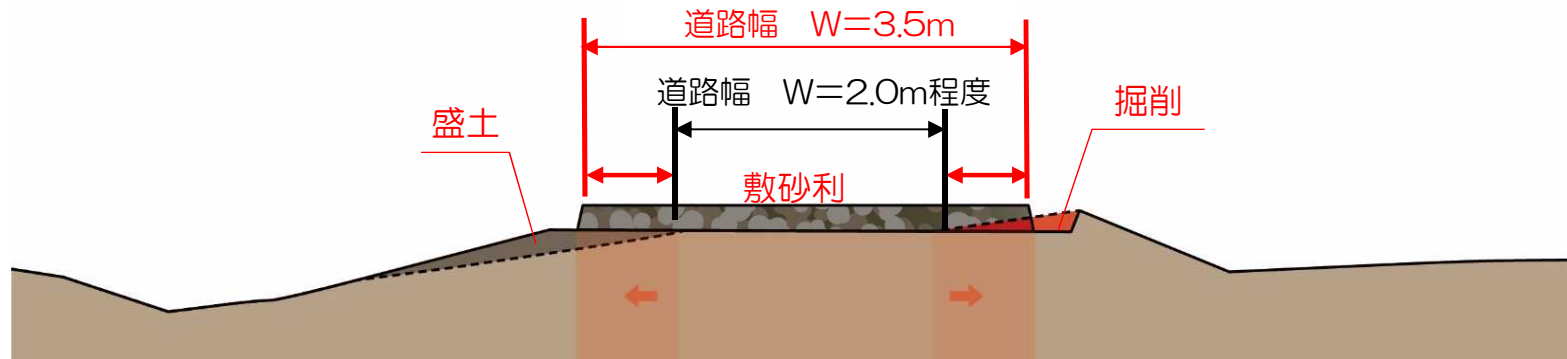
③連絡水路工事用道路工事

連絡水路の工事着手に向けて、工事に必要な**工事用道路**を造成する。



③連絡水路工事用道路工事

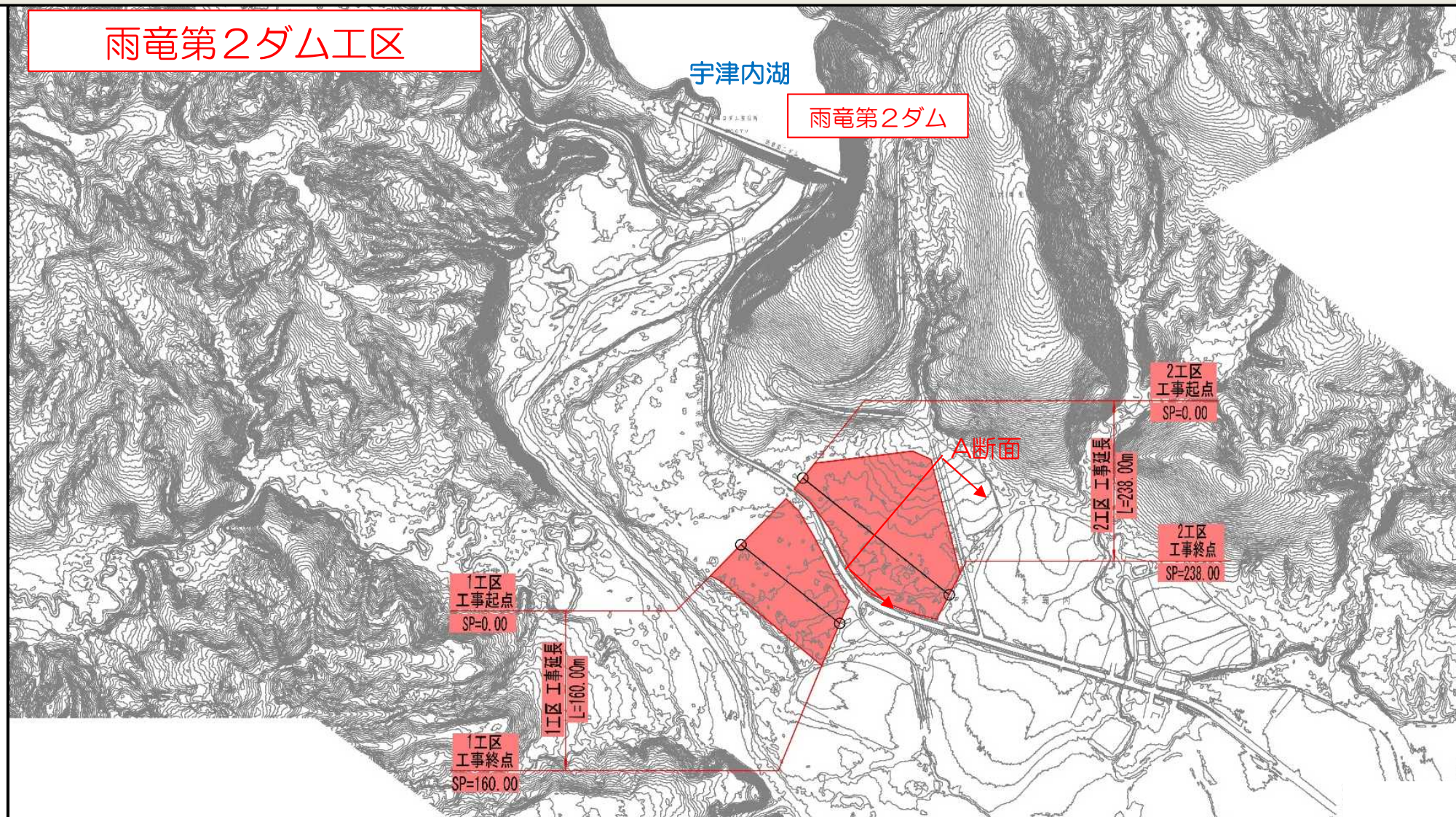
道路の幅を広げる工事



断面図（イメージ図）

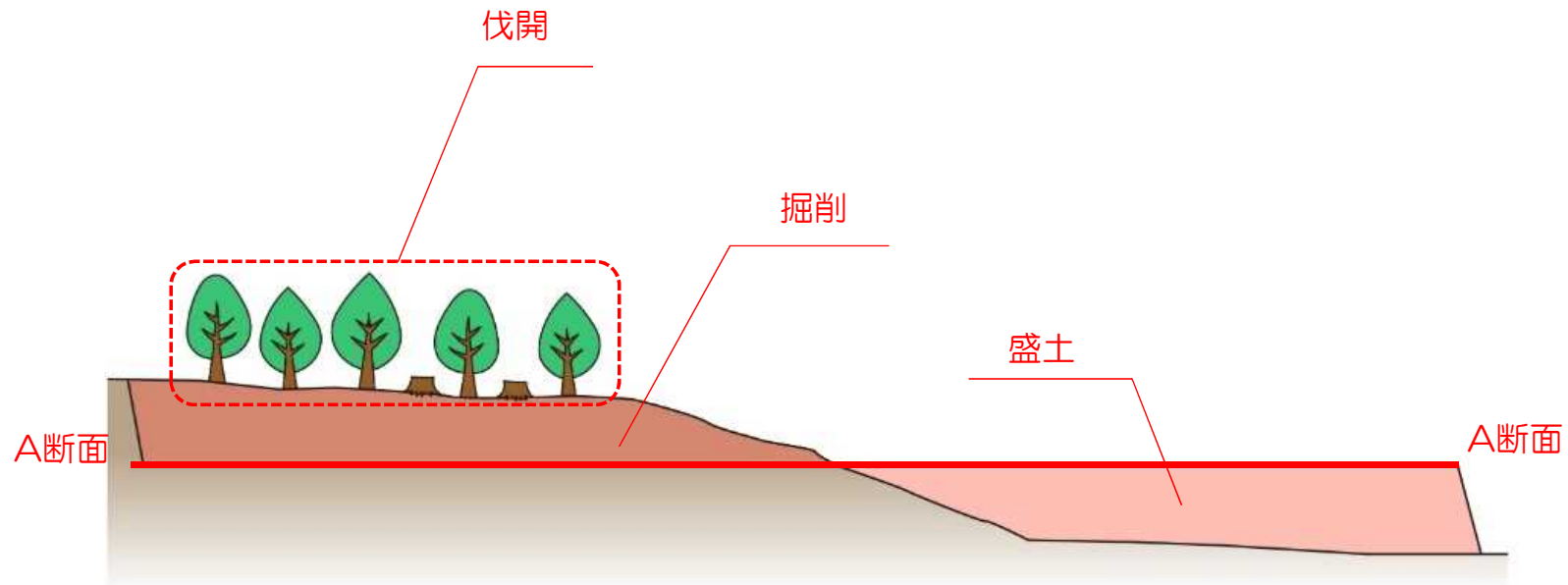
④-1 基盤整備外工事

雨竜第2ダム本体工事着手に向け、本体工事で必要となる土砂置き場の造成を行う。



④-1 基盤整備外工事

木を伐採し、土地を平らにする工事

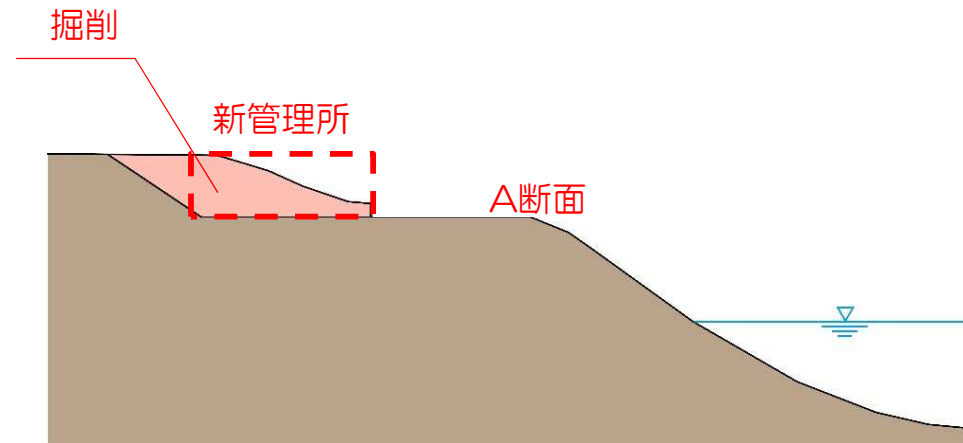


断面図（イメージ図）

雨竜第1ダム工区



掘削を行い新管理所予定地の基盤整備を行う工事



断面図（イメージ図）



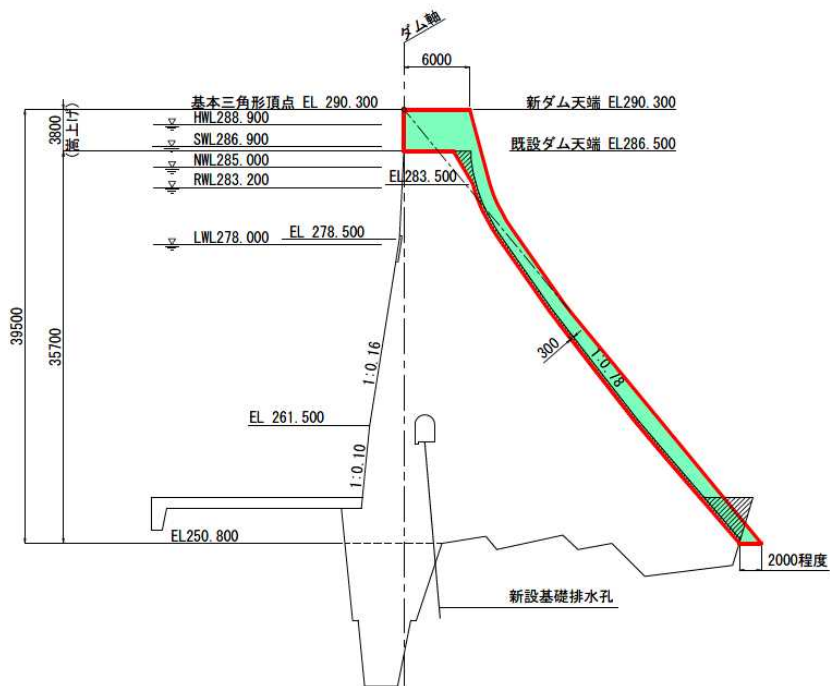
新管理所（イメージ）

4. 事業費増額の可能性がある事象

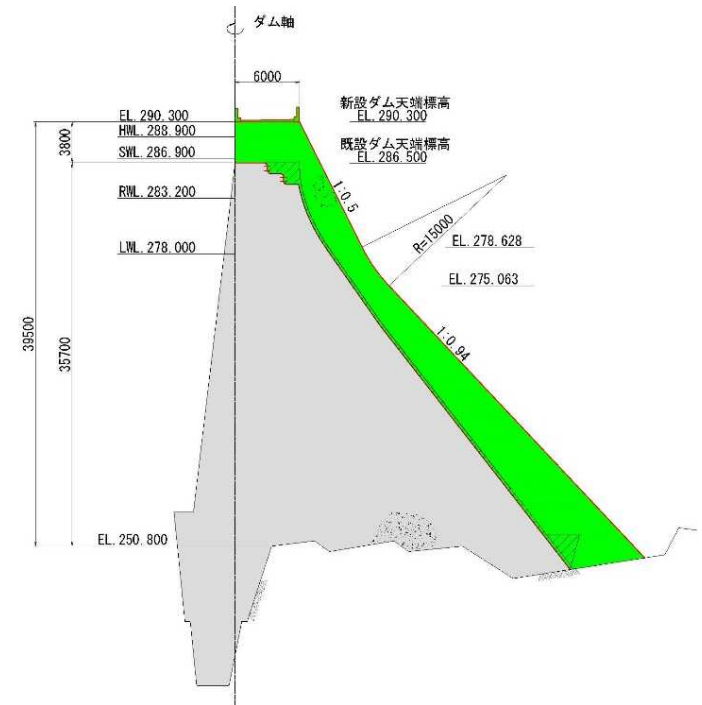
4. 事業費増額の可能性がある事象 ①

- 雨竜第2ダムでは、嵩上げにともなう堤体形状を、安定性を確保するという観点から令和5年度の実施設計において検討を実施。
- コンクリートの打継目付近の状況を網羅的に把握し検討を行った結果、堤体の安定性を確保するための堤体下流面勾配について変更したことにより堤体基本形状が変更された。
- 堤体基本形状の変更により、堤体下流面のコンクリート量が増加することから、事業費の増額が見込まれる。

当初（概略設計）段階の断面イメージ
[下流面勾配 1 : 0.78]

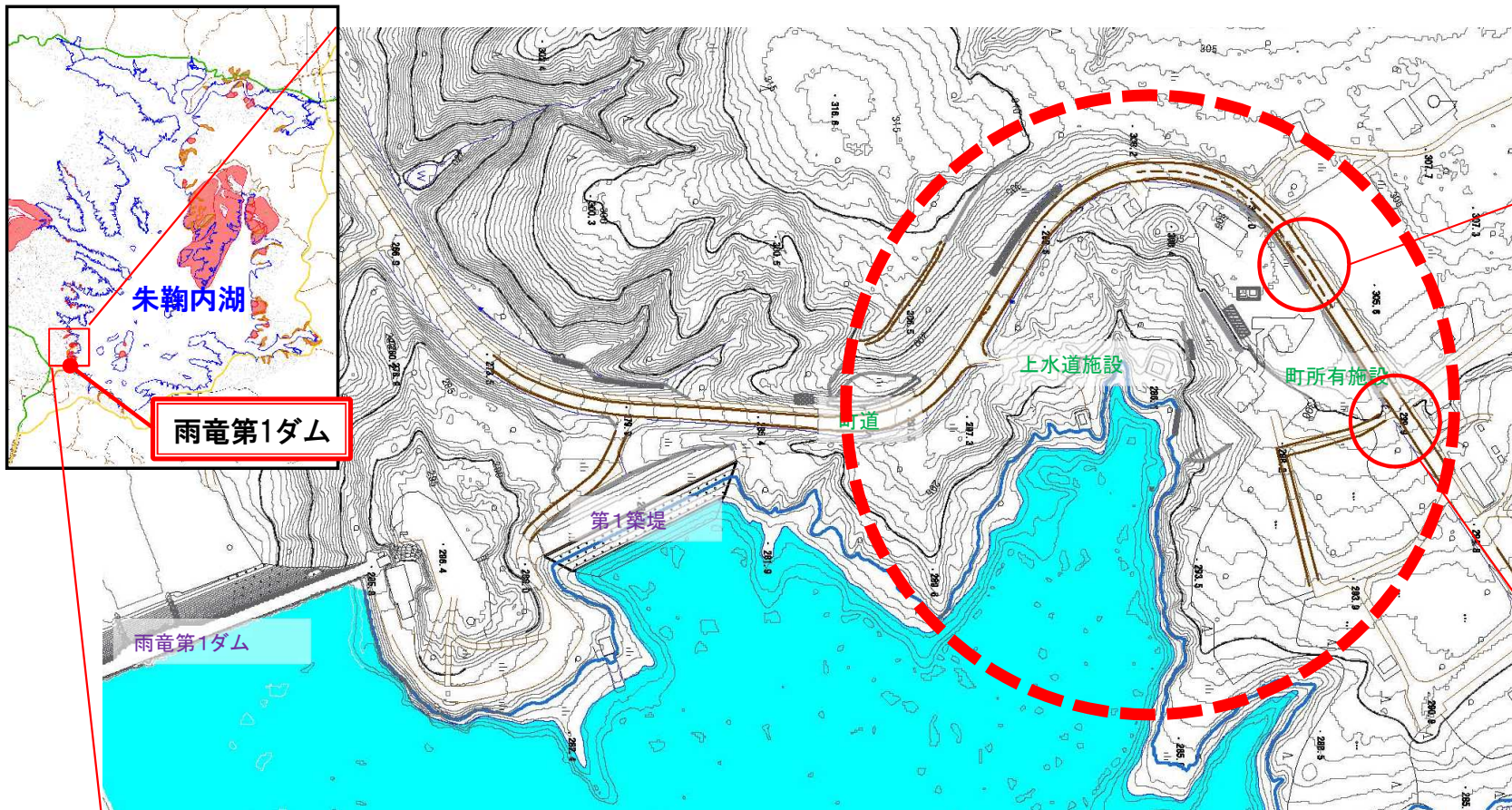


変更（実施設計）後の標準断面図
[下流面勾配 1 : 0.94]



4. 事業費増額の可能性がある事象 ②

- 雨竜第1ダムの貯水池において、地形図・空中写真の判読、現地踏査による地すべり概査の結果から、地すべり要精査箇所が抽出された。
- 地すべりの規模として合計79万 m^3 程度の中規模区分に相当する。
- 国への管理移行に伴い、洪水調節による影響が考えられることから、現在ボーリング調査により詳細な調査を実施中。
- 調査結果を基に対策工の必要性の有無を含め検討を行う。



道路の路面に、段差を伴う亀裂が確認された。



道路横断クラックが確認された。

5. まとめ

5. まとめ

- 総事業費 約449億円のうち、令和6年度予算は約44億円、令和7年度以降の予算は285億円となっている。
- 令和6年度については堤体工事着手に向け、堤体左岸工事用道路工事、仮橋設置工事、連絡水路工事用道路工事および基盤整備外工事に着手した。
- 雨竜第2ダムにおいては、堤体基本形状が変更されたため、堤体下流面のコンクリート量が増加することから、事業費の増額が見込まれる。
- 雨竜第1ダムの貯水池において、地すべり概査の結果から、地すべり要精査箇所が抽出された。国への管理移行に伴い、洪水調節による影響が考えられることから、現在ボーリング調査により詳細な調査を実施中。調査結果を基に対策工の必要性の有無を含め検討を行う。